

平成 31 年 2 月長浜市教育委員会定例会 会議録

I. 開催事項

1. 開催日時

平成 31 年 2 月 19 日（火） 午後 1 時 30 分～午後 2 時 55 分

2. 開催場所

教育委員会室（長浜市八幡東町 632 番地 長浜市役所 5 階）

3. 出席者

教育長	板山 英信
委員	井関 真弓（教育長職務代理者）
委員	西橋 義仁
委員	西前 智子
委員	廣田 光前
委員	美濃部俊裕

4. 欠席者

なし

5. 出席事務局職員

教育部長	米田幸子
次長兼教育総務課長事務取扱	岩田健
教育改革推進室長	土田康巳
教育指導課長	伊藤浩行
すこやか教育推進課長兼学校給食室長	大田久衛
幼児課長	大音洋
教育センター所長	野村幸弘
市民協働部歴史遺産課副参事 兼長浜城歴史博物館館長	秀平文忠
教育総務課長代理	今井健剛
教育総務課主査	大石文哉

6. 傍聴者

1 人

II. 会議次第

1. 開 会

2. 議 事

- 日程第 1 会議録署名委員指名
- 日程第 2 会議録の承認
- 日程第 3 教育長の報告
- 日程第 4 議案審議
- 日程第 5 その他

3. 閉 会

III. 議事の概要

1. 開 会

教育長から開会宣言があった。

2. 会議録署名委員指名

井関委員、西橋委員

3. 会議録の承認

1 月定例会

特に指摘事項はなく、1 月定例会の会議録は承認された。

4. 教育長の報告

教育長：本日は 2 点報告します。1 点目に、特別支援学級の合同学習発表会を浅井、虎姫及び木之本の 3 会場で開催しました。浅井会場の様子を拝見しましたが、どの発表も非常に頑張っており、十分に練習を重ねた成果が出せるところまで高めたものが多かったように思います。今年は特に「笠地蔵」「おむすびころりん」といった日本の昔話を題材にしたものが多かったほか、子どもが多く在籍しているところは出番をつくる必要もあり、各校ともご苦労なされたかと思えます。

学習発表会が終わった後、小学校 6 年生と中学校 3 年生の子どもたちがステージ上で在校生から花束をもらうというセレモニーがございました。お手元の資料は、その際に小学校の卒業生代表が述べた感謝の言葉を一部要約したものです。代表の子が、服の袖で涙をぬぐいながら当時の思いを語っていましたが、聞いている側にも思いがひしひしと伝わってくるすばらしい感謝の言葉でした。機会を見て校長会等で紹介したいと思いますが、子どもたちはこういう思いで 4 月からそれぞれの中学校の門をくぐっていくのだということを、ぜひ中学校の教員に十分胸に刻んでいただき、たくさん子どもたちを受けとめていただきたいと思います。

中学校の部は、3 年生の男子生徒が感謝の言葉を述べました。この子は、北星高校の高等養護学校へ進学することが決まっていますが、父親が高等学

校の合格発表を一緒に見に行ってくれ、番号があったときに、よかったなと言って僕の肩をたたいてくれた。僕はこれを一生忘れない、高等養護学校へ進学しても頑張りたいという思いを語っていました。

本当にいい発表会でした。委員の皆様にもぜひご覧いただきたいと思いません。

2点目は長浜城H-1グランプリ 2018 です。私も審査員の端に名を連ねておりましたので、1月の授賞式に行っていました。ご覧いただいているものは金賞を取った作品です。子どもたちの原案を滋賀夕刊がアレンジしたもので、教育委員会事務局の廊下にも掲示しています。

お手元の資料は湯田小学校5年生と浅井中学校3年生のものですが、館長や審査員の方々も、自分で足を運んで写真を撮ったり、地元の方にお話を聞いたりするなど、足で稼いだ内容となっているところを非常にすばらしいとおっしゃっておられました。現代はインターネット等を使えばすぐ調べられるのかもしれませんが、このように自分でこつこつ足を運んで調べていくことは、新学習指導要領で一番大事な、自ら進んで学ぶ姿勢ではないかと思えます。

今年に入って、全県的に交通死亡事故が非常に多発しております。これから卒業式等に向かいますので、子どもたちにも交通安全に気をつけるよう、学校を通じて十分お願いをしていきたいと考えているところです。

報告は以上です。

5. 議案審議

「議案第2号 議会の議決を経るべき教育関係議案について」は、市議会で審議される前の情報であり、公にすることにより市民等の間に混乱を招くおそれがあることから、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第7項の規定に基づき非公開としたい旨の発議が教育長よりあり、委員の全会一致で可決された。

議案第2号 議会の議決を経るべき教育関係議案について（会議非公開）

教育長は事務局に説明を求め、関係所属長から資料に基づき説明があった。特に意見はなく、各委員とも異議なしということで原案どおり同意された。

議案第3号 長浜市特別支援教育就学奨励費給付要綱の一部改正について

議案第4号 長浜市就学援助費給付要綱の一部を改正する告示の一部改正について

教育長は事務局に説明を求め、すこやか教育推進課長から資料に基づき説明があった。

主な質疑応答は以下のとおり

廣田委員：対象の生徒は何人程度になりますか。

すこやか教育推進課長：30年度に特別支援の学級に在籍されている方は、小学校165人、中学校83人、合計248人です。その中で、特別支援教育就学奨励費の受給認定を受けておられる方が小学校で95人、中学校で54人、合計149人です。全学級、全児童に占める割合は1.5%。特別支援学級に在籍している生徒に占める割合は60%です。

その他に意見はなく、各委員とも異議なしということで原案どおり決定された。

6. 協議・報告事項

(1) 長浜市学校ICT環境整備計画【第1次】(2019年度～2021年度)について

教育指導課長から資料に基づき説明があった。

主な質疑応答は以下のとおり

西橋委員：第1次ICT環境整備計画を3年間で推進することを前提にした場合、県下の各市町村に比べてどのレベルの整備状況になるのでしょうか。

教育指導課長：計画通りに整備できれば、県内の平均以上のレベルになると思われます。しかし、他市町も3年間でどのように取り組まれるかはわかりません。

西橋委員：草津はかなり進んだ取組を早くからやっておられます。ロボットのPepper(ペッパー)は、今回の計画に全く関係ないですね。

教育指導課長：この計画の中では求めておりません。

西橋委員：第2次に入ってくるかもしれないということですか。

教育指導課長：ICTの場合、スピード感が全然通常と違いますので、第1次計画を進めながら次の計画を立てていくことはしなければならぬと思っています。

教育長：会議等で他市の教育長と話す機会がありますが、草津市は機器の整備に関しては先端を走っていると思います。ただ、草津市の川那邊教育長が言うには、Pepperはレンタルしているので、返却した後どうしていくのかは全く未定だということです。長浜市も、県内外の状況を調査したのですが、まず現場の意見を聞いて、教員が最低限欲しいというものをまず整備して、それから次の計画につなげていきたいと考えています。

コンピューター教室が導入されたときも、教室に1学級分のコンピューターを入れましたが、実際に各教科で使っていたかは疑問符がつくところもあります。そうなっては宝の持ち腐れかと思しますので、議会にも十分ご説明申し上げたいと思います。

廣田委員：ICT化を進めることで、資料の検索や整理がすごく効率的になります。医療の現場もそうで、コンピューターがないと仕事になりません。

ただし、危険もたくさん潜んでいます。病院でも、患者の資料が漏れてし

まうことがあります。病院間をネットワークで繋いでいる場合、もし何か不都合があれば大変なことになります。コンピューターが1人1台ある時代になったら、問題は一斉に広がります。

計画自体はかなり良いと思います。ただ、整備にあたっては実際に使う人に対する対策が一番大事です。遊び心や金銭目的で利用されたら大変なことになりますので、子どもの心の整備も大事だと思います。

井関委員：校務支援システムの整備について、3年後に、導入前比で業務量20%削減と挙げていただいています。どういったことを想定されているのか質問させていただきます。

教育指導課長：確かに、Excel等を使ってそれぞれやっていますし、中学校では市内で統一の様式ができていますが、小学校はそこまで行っていません。学校によってまちまちであったり、使っているものが少しずつ違っていたりします。その辺りを統一することによってスムーズなデータのやりとりが行えますので、今とは随分変わると思われます。ただし、20%について具体的な根拠はございません。既に導入されている他市町のデータから、この数字はきているものですが、少なくとも業務量が軽減されることは間違いございません。

井関委員：当分はそれぐらいを予定しているということですね。

教育指導課長：異動もございますので、本来、県で一斉に導入すべきであるという意見はございます。けれども、現状は各市町単位で導入されているところ、似たものを独自で導入しておられるところも、全く導入していないところもあるのが現状です。

教育長：既に先行して導入している市では、効果が出ていると聞いています。ただ、これのみで20%、15%という数値目標に到達するのは、人による部分があると思います。

学校は個人商店の集まりのようなもので、職員会議の提出資料一つとっても用紙のサイズがバラバラというのはよくあります。私が校長をしていたときに、この用紙を統一したいと提案したことがあります。前のデータが使えないことから難色を示されました。ですから、校務支援システムが順調に機能するまでは多少の時間はかかると思われます。しかし、機能し始めたら、教員の事務作業の縮減の効果は確実にあるというのは、草津市初め他の市町からも聞いておりますので、長浜もぜひ、それに追いつきたいところです。

西橋委員：これを導入することにより教員の業務負担が軽減され、子どもと向き合う時間が増えるという説明がありましたが、ここが一番大事なところだと思います。教育委員会の根本的な考え方として、何を切るのかということが非常に難しいことだと思います。校務支援システムを導入することによって何らかの業務が切れたかわりにこっちの仕事をしなさいでは、全然働き方改革にマッチしないと思うので、長浜市教育委員会としては、ある程度はっ

きりした方向性を持つべきではないかと思ひます。

西前委員：ICT化モデル事業の成果と課題で、東中で2年間実施してこられた結果が書かれています、メリットとデメリットが出てきたと思ひます。アンケートではいい結果が出ていますが、少し具体的にどういふ点がいいとか、どういふ点がよくないか、教員や子どもたちから、特にデメリットに関しては細かく出していただき、少しでもそこが軽減されるように実施に向かっていたらいいなと思ひます。

ICTを使うための授業ではなく、より子どもたちにわかりやすい授業をするために、逆にICTを使わないほうが効果的な授業もあると思ひますので、その辺りを判断していただきながら使っていたらいいかと思ひます。例えば教科が違ふ教員に見ていただいたり、学運協やPTAなど、教員以外の方に授業を見ていただいたりするといいかと思ひます。

教育長：以前、文科省から、先進的に研究に取り組んでいる学校の教育委員会の報告を聞きましたが、ICT機器は、今まで20年、30年と当たり前のように使ってきた黒板、チョーク、三角形の物差しのようなもので、結局これをどう使いこなすか、どう活用するか、どう取捨選択していくかを現場の教員が子どもたちの実態に合わせて組み入れていかなければならないと盛んにおっしゃっておられて、なるほどと思ひました。西前委員のご指摘にあるように、そのあたり、非常に私は重要だと思ひますので、第一次の計画等の実施に伴いまして、研修をしっかりと重点的にやっていきたいなと思ひます。ありがとうございます。

井関委員：教育センターでは、ICTの導入による今後の研修のあり方などについてはどのようにお考えか教えてください。

教育指導課長：教育長の話にも少しありましたが、与えられた機器を使った授業をどうこなすかという考え方ではなく、子どもたちが生きていく、これからの社会はICT機器が当たり前になっている時代ですので、どういふ形でそれを学んで、使いこなしながら教育をしていくべきかについて、もしできることなら全教職員を対象に研修ができればと考えています。しかし、推進校で進めながら、全体の教員にできるだけ広げるような機会を多く持つという方法ではなかなか定着しにくいところがありますので、今、それを検討している段階です。

とにかく情報活用能力が最も必要とされておりますので、よりよいものになるように力を入れていきたいと思ひています。

教育長：計画の概要が形になりましたら、委員の皆様にもまた委員協議会等でご説明申し上げたいなと思ひます。そのときに、またご意見賜ればと思ひます。

廣田委員：よい方針だと思ひますが、ICTは、私は万能ではないと感じています。例えば料理教室のように、料理の味、においを実際に感じることににおいて、現場に勝ることはありません。ICTはあくまでも学習手段の一つです。現物に触れる機会を設けることも同時に必要だと思ひます。

(2) 「長浜市通学路交通安全プログラム」による対策一覧等の公表について
すこやか教育推進課長から資料に基づき説明があった。

主な質疑応答は以下のとおり

西橋委員：各小学校から通学路に関する様々な要望が出てきていると思いますが、このようにまとめていただいたのはよかったと思います。すこやか教育推進課が構成メンバーの中心になって進めていこうということで、大変な作業になるかと思いますが、よろしくお願ひしたいと思います。

対策状況を見ると、全部対策継続となっています。どれから手をつけていくのかは、構成団体と協議して予算のついたものからになるかと思いますが、今後の見通しはどうでしょうか。

すこやか教育推進課長：国や県の予算がつくかどうかによって実施できるか決まります。少しずつしか進まないところもあれば、たまたま予算がついて完了というところもあります。各担当としては全部進めたいのですが、何とも言えないのが実情です。

7. 閉会

教育長から閉会宣言があった。